令和８年度第１回 刈谷市多文化共生推進委員会

議事録

■ 日　時 ：　令和８年１０ 月１６日（金）午後１時３０分～３時００分

■ 場　所 ：　刈谷市役所５階５０２会議室

■ 出席者

所　　属	氏　　名
東京外国語大学 教授	小　島　祥　美
刈谷市教育委員会 学校教育課	尾　本　　聡
愛知県国際交流協会 交流共生課	杉　山　美　紀
刈谷市国際交流協会	斉　藤　公　人
一ツ木自治会	及　川　啓　太
Oasis Brasil	西　　マ　リ
ＳＢＫ	川　口　ビバリ
ＶＮＫ	チャン バン トン
市民委員	安　田　寛　二
市民委員	田　　美　英

■ 欠席者

国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高　木　遠　慧
株式会社デンソー ソーシャルリレーション室	太　田　寛　二
刈谷市 市民活動部　部長	丹　羽　雅　彦

■ 事務局

市民活動部 市民協働課長	神　谷　友　理
市民活動部 市民協働課　課長補佐兼地域支援係長	酒　田　孝　平

市民活動部 市民協働課　地域支援係　主任主査	眞　野　浩　志
市民活動部 市民協働課　地域支援係　主事	高　橋　莉　子

■ 配付資料

次第、委員名簿

資料１　本市の外国人市民の状況について

資料２－１　第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

資料２－２　第２次刈谷市多文化共生推進計画進捗状況

別添１　多言語対応指針・マニュアルの作成・運用

別添２　外国人市民の困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷

別添３　外国人市民ウェルカムパック

別添４　広報紙（カリヤグローカルレターVol.11）

別添５　多文化交流フェスタ in 刈谷チラシ R7_R8

■ 議事録

１．開会

◇ 委員及び事務局から自己紹介

◇ 委員長の選出：事務局案として小島委員を推薦し、拍手で承認された。

◇ 副委員長の指名：委員長が斉藤委員を指名し、拍手で承認された。

◇ 委員長あいさつ

２．議題

（１）本市の外国人市民の状況について

◇事務局が資料１を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委 員 長：今年の１０月から在留資格の更新手数料等が大きく変わったが、外国人コミュニティの中で困っているという話は聞くか。

委　　員：ベトナム人の中で、更新できなかった人は聞いていない。

委　　員：ブラジル人の高齢者は永住権を取る人が多い。また、更新をあきらめて帰国する人も多い。

委　　員：フィリピン人については、在留資格を更新するにあたって、言葉の壁で困っているという話を聞いた。

委　　員：今年の夏休みは特に日本語教室に子どもが増えたが、社会的な変化があったのか。

委 員 長：学校現場でも外国人の子ども達が増えている。愛知県国際交流協会の日本語教室はどのような状況か。

委　　員：愛知県国際交流協会の日本語教室も子どもが増えており、日本語教室に入りきらない児童・生徒もいる。数年前から特に、アジアの国の人が増えていると感じる。また、ブラジル人の中には、長年日本に在住しているものの、改めて日本語を学ぶ人も増えている。

（2）第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

◇事務局が資料２－１、２－２を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委　　員：これまでの取組の中で、成果が出ているものと、最近、新たに成果が表れた取組はあるか。

事 務 局：コミュニティガーデンについて、一ツ木地域のワールドスマイルガーデンは、多様な国籍の人による交流活動が活発で多くの人に参加いただいている。小垣江地域の輪～るど・ビレッジ小垣江では、まだ参加者は少ないものの、11 月の初旬に交流イベントを実施する予定である。イベントには外国人も参加するようになっており、少しずつ活動が活発になってきていると感じている。

委　　員：資料２－１に記載の基本目標３（１）の国際理解教育の推進について、講座を実施した結果はどうか。また、他の小学校でも出前講座を実施しているのか。

事 務 局：出前講座は、学校からの依頼に応じて実施している。毎年各学校に講座を紹介し、依頼を受けて実施している。 令和７年度に亀城小学校で実施した講座では、日本と外国の違いや、日本の良いところについて、外国人住民とコミュニケーションを通じて理解を深めた。令和８年度は衣浦小学校でも実施した。

委　　員：講座では、具体的にどのような内容を扱っているのか。

事 務 局：講座の内容は学校と相談して決定している。複数のメニューを用意しており、日本の良いところや課題、多文化共生、刈谷市の交流活動について話している。近年は、刈谷北高校では、刈谷市における多文化共生に関する内容で実施している。

委　　員：講座の実施に当たり、市としてのガイドラインはあるのか。

事 務 局：複数のメニューを用意しているが、それに限定せず、国際理解や多文化共生に関する内容について、外国人住民の協力を得ながら実施している。

委　　員：１０月下旬に亀城小学校でワールドスマイルガーデンの紹介をする機会がある。小学校では、刈谷市を今後どのようなまちにしていきたいか、そのために自分たちにできることは何かを考える授業を行っていると聞いている。また、交流活動が行われている地域について、計画最終年の令和１５年度までに2地区増やすと資料２－１の基本目標３のところに記載されているが、具体的な候補地や活動内容などはどのように考えているのか。

事 務 局：現時点では具体的に決まっていないが、外国人住民が多い野田地区や東刈谷地区を候補として考えている。活動については、畑での活動に限らず、市民が交流できる場を創ることを検討している。令和１５年度までに４地区を目標としているが、目標を見直す可能性もある。今後も活動地域を増やしていきたいと考えている。

委　　員：資料２－１の基本目標２（２）について、日本語適応担当教員とはどのような教員なのか、また、資料に記載の研修ではどのようなことを行っているのか。

委　　員：日本語適応担当教員は、一般の教職員が年度ごとに担当する。日本語指導が必要な児童・生徒数が一定の基準を超えると、日本語適応教室を設置することができる。研修については、担当教職員が集まり、講義型やグループワーク型の学習をしている。昨年度は、JICA に派遣され、１年間学んだ教員を講師として招き、愛知県内の状況や、外国籍の子どもが抱える困難について、実体験を交えた話をしてもらった。

委　　員：その研修は最近始まったものなのか。

委　　員：研修は何十年も前から実施している。近年は日本語適応教室が増加しており、今年度も新たに２学校増えた。現在、中学校は ６校中３校、小学校は、１５校中１０校に設置されている。

委　　員：日本語適応教室では、異なる学年の児童・生徒が一緒に学んでいるのか。

委　　員：児童・生徒一人ひとりの日本語能力に応じた指導をしている。日本語の習得が充分でない児童・生徒には語学指導を行い、日本語に慣れてきた段階で教科指導を行うなど、それぞれに適した支援を考えながら授業を実施している。

委　　員：外国人が来日した場合、年齢に応じた学年に振り分けられるのか。

委　　員：義務教育であるため、原則として年齢に応じた学年に振り分けている。ただし、市では保護者と相談の上、学年を１つ下げることも認めている。

委 員 長：資料２－１の基本目標２（３）に記載のベトナム人コミュニティの母語教室について、市の支援はあるのか。

事 務 局：ベトナム人コミュニティへの支援については、ミーティングを通して一緒に考えている母語教室については、市として広報を行うとともに、実施場所として公共施設である国際プラザ等を利用いただく予定である。

委 員 長：母語教室のような場は必要である。自分たちのルーツを知り、自信を持つことは重要だが、日本に長く暮らす中で、その意識が薄れてしまうこともある。日本語の能力を伸ばす上でも、母語教室は必要である。コミュニティだけでは難しい場合もあるため、市にも支援してほしい。また、資料２－１の基本目標２（２）にブラジルの大学との連携という記載があるが、日本語を学ぶだけでなく、母国の人や自分のルーツに関わることを学ぶ機会は貴重であり、学校では実施できない取組である。そういった活動が、各国のコミュニティにも広がることを期待する。

委　　員：「外国人市民の困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷」について、フィリピン人向けの情報は英語で良いのか。また、他の言語のニーズはないのか。

事 務 局：フィリピンコミュニティと相談した結果、タガログ語までは必要ないということになった。現時点では、掲載している言語以外のニーズは少ないと考えている。

委　　員：基本目標２（２）に掲載されている語学指導員と語学相談員は、それぞれどのような役割を担っているのか。

委　　員：語学指導員は、日本語指導のほか、保護者懇談会の支援や生活相談を行っている。ポルトガル語、英語、タガログ語、ベトナム語、中国語の６人がいる。語学相談員については、プレスクールにおいて、日本に来たばかりの子どもが日本の文化に慣れるための指導を行っている。かりがね小学校と朝日小学校に設置されており、タガログ語とポルトガル語に対応する相談員がいる。最近では、インドネシア人の子どもがプレスクールに入り、英語で相談員とやりとりしている。

委　　員：ワールドスマイルガーデンにも多くの中学生がボランティアとして参加しており、その中には外国にルーツを持つ子どもも多い。子どもたちは国籍に関係なく仲良くしている。様々な国籍の子ども達がお互いに関わる中で学んだことを発信する場があると良いのではないか。また、活動する中で中学生との接し方が難しいと感じている。

委 員 長：自分のルーツを恥ずかしいと思ったり、隠したいと考えたりする外国人の子どももいる。

委　　員：自分のルーツを知ることは大切である。自分の子どもも、かつて自分のルーツを恥ずかしいと感じていた。また、外国にルーツを持つ中高生の中には、親とうまくいかず、親子ともに困っているケースがある。親に相談しても、自分の気持ちは理解してもらえないと感じている子どももいる。

委　　員：自分の子どもは幼い頃に来日したため、日本の生活に順応しており、周囲の子どもたちとも良好な関係を築いている。一方で、ベトナムのことを忘れ、日本人らしくなっていると感じる。子どもたちは自分のことを親に相談せず、自分で決めてしまうことがある。

委 員 長：自分の所属する大学には、愛知県内から進学した外国にルーツを持つ学生が多くいる。親の母語を学びたいという理由で大学に進学する学生もいる。以前は話せていたものの、日本人に馴染もうとする中で、母語を忘れてしまった学生もおり、自分の国籍やルーツに関することを抑えてきた子どもたちが多い。こうした中、安城市から相談を受け、小学４年生の授業に関わった際に、日本の生活様式について学ぶ単元の中で、外国にルーツを持つ児童が自国の生活様式をクラスで紹介する授業も実施した。児童は自分の経験をクラスメイトに伝えようとし、日本人の児童からも多くの質問があった。異なる点だけでなく、共通点も見つけることができ、授業後のクラスの雰囲気も良くなった。多様なルーツを持つ子どもたちがいるからこそ実現できる授業であった。こうした経験を地域の中でもできるようになれば、刈谷市の宝になるのではないか。

委　　員：保護者は日本の学校に通った経験がないため、学校の見えないルールが分からず、子どもがいじめられるのではないかと不安に感じることもある。委員長の話にあったように、

子どもたちが自分たちの強みを理解し、互いを尊重できるようになるとよい。子どもたちは偏見を持っていないが、周囲の大人がそのような環境をつくっているのではないか。外国にルーツを持つ子どもたちの強みを認められるような活動を、市や地域で実施してほしい。

委　　員：アジア・アジアパラ競技大会に関連して、さまざまな学校を訪問した。いじめの話もよく聞くため、相互理解が進むとよいと思う。

３　その他

◇事務局から連絡事項を伝え、閉会。